金沢美術工芸大学　美術工芸学部　美術科　彫刻専攻
令和３年度　一般選抜　実技試験Ⅱ　スケッチ・塑造（令和３年３月12日実施）

| 受験番号 | |
|---|---|

［試験問題］

| 自分の手と、幾何形体（立方体・四角柱・四角錐・円柱・円錐・球）の中から１つ以上を選択し、自由に構成しなさい。 |
|---|

［課題１・スケッチ］（８：３０～１０：００）　２００点

配布されている画用紙に構想画をスケッチしなさい。作品（構想画）にタイトルをつけ、なぜその幾何形体を選んだか理由を述べるとともに、制作意図を100字以上200字以内で記しなさい。

| タイトル | |
|---|---|

100

200

［課題２・塑造］（１０：００～１６：４５（１２：００～１２：４５休憩））５００点

構想画をもとに立体で表現しなさい。

制作をしていく中で構想の変更はかまいません。ただし、スケッチ、作文には手を加えないでください。

［配布物］○問題用紙　○受験番号記入用紙
［スケッチ］○画用紙　○カルトン　○クリップ小２個
［塑造材料］○粘土（15kg）　○シュロ縄　○針金（12番線、アルミ線）　○角材３本
［工具類］○金槌　○のこぎり　○ペンチ　○カッターナイフ　○霧吹き　○固定金具
［その他］○制作板（45×45㎝）　○粘土練り板（45×60㎝）　○回転器
○クリップ大（受験票を挟む）　○大ビニール袋（休憩時に作品にかぶせる）

（注意事項）

- スケッチは各自持参した鉛筆で行ってください。紙面の使い方は自由とします。（画用紙裏面使用不可）
- 10時に［課題１・スケッチ］を終了します。この用紙は一旦回収をします（コピーを取った後に返却）。10時以降はスケッチ、作文には手を加えてはいけません。
- 制作台の高さ調整は箱椅子や角材を使ってください。必要な場合は適宜申し出てください。
- 塑造の表現素材は粘土とします。与えられた量の範囲で制作すること。それ以外の材料や工具を表現素材（表現の一部分）として用いてはいけません。金具、角材、シュロ縄、針金等は芯材や補強として、必要に応じて用いること。
- 塑造の制作は持参した塑造用具と与えられた材料、工具で制作しなさい。工具の取り扱いには充分注意を払ってください。番線切り、掃除道具が必要な場合は申し出てください。
- 釘は長さが５種類あります。必要な人は各自必要数だけ取りに来てください。
- 工具は制作の進行状況に応じ係員が適宜回収します。回収後に工具が必要になった場合は係員に申し出てください。
- 制作台の高さ調整をした人は制作終了後に箱椅子、角材を抜き取って元の高さに戻してください。
- 制作終了後は身の回りの整理をしてください。また、係の指示に従い、用具の回収等に協力してください。

**※この用紙は試験終了時に指示に従い提出すること。**